

育苗箱施薬でカメムシ防除！

1 はじめに

近年、殺虫成分の溶出を制御するなどの製剤の改良により、従来の育苗箱施薬剤に比べ効果が持続し、初期害虫だけでなく、斑点米カメムシ類にも防除効果が期待できる新しい育苗箱施薬剤が開発されています。しかし、本県ではこれらの溶出調整型育苗箱施薬剤の使用事例は少ないため、本県で発生が多い斑点米カメムシ類に対する防除効果を検証しました。

2 溶出調整型育苗箱施薬剤（デジタルメガフレア箱粒剤）の特長

- (1) 箱処理剤で斑点米カメムシ類も防除が可能
- (2) 防除回数が減り省力化を実現
- (3) 本田散布に比べ、天候の影響を受けず効果が安定
- (4) ヤゴなどの水生動物に対する影響が少ない



図1 アカスジカスミカメ成虫

3 斑点米の発生抑制効果

ハナエチゼンの斑点米の発生量は、溶出調整型育苗箱施薬剤のデジタルメガフレア箱粒剤は、慣行の無人ヘリによるダントツフロアブルの2回散布よりも発生が少なく、高い防除効果が検証されました（表1）。

いちほまれでもデジタルメガフレア箱粒剤は、高い防除効果が確認されました（表2）

以上のことから、溶出調整型育苗箱施薬剤であるデジタルメガフレア箱粒剤の斑点米の発生抑制効果は、防除時期の降雨などの気象条件による影響もなく、安定した効果が得られることが実証されました。また、早生品種のハナエチゼンから熟期の遅いいちほまれまで、県内で栽培されている主要な品種について、幅広い作型に対応可能であることがわかりました。

| 薬剤名 | 調査粒数 | 斑点米粒数 | | | | 斑点米発生率 (%) |
|-----------------|-------|-------|-------|----|----|------------|
| | | 頂部 | 側部しみ状 | 斑点 | 合計 | |
| デジタルメガフレア箱粒剤 | 24004 | 4 | 2 | 1 | 7 | 0.03 |
| ファーストオリゼプリンス箱粒剤 | 22760 | 12 | 8 | 5 | 25 | 0.11 |
| 無処理 | 18790 | 9 | 6 | 4 | 19 | 0.10 |

注)出穂期:7月16日 収穫期:8月20日
無人ヘリ防除:ファーストオリゼプリンス箱粒剤、無処理は7月22日、7月30日にダントツフロアブル24倍液を800ml/10a散布



図2 側部しみ状の斑点米

| 薬剤名 | 調査粒数 | 斑点米粒数 | | | | 斑点米発生率 (%) |
|---------------------|-------|-------|-------|----|----|------------|
| | | 頂部 | 側部しみ状 | 斑点 | 合計 | |
| デジタルメガフレア箱粒剤 | 26531 | 6 | 7 | 1 | 14 | 0.05 |
| Dr.オリゼフェルテラグレータム箱粒剤 | 24119 | 16 | 11 | 2 | 29 | 0.12 |
| 無処理 | 27575 | 14 | 10 | 3 | 27 | 0.10 |

注)出穂期:8月5日 収穫期:9月8日
すべての処理区において生育期間中は無防除で行った。

本技術導入の際は、生育期の防除も含め、広域的な防除計画を立てて行ってください。

(農試 次世代技術部 生産環境 G)